



新競技規則における再確認事項

2016年11月1日

(公財) 日本ハンドボール協会競技本部
審判委員会

本年7月から実施されている新競技規則に関し、各種大会で話題となり、かつ再確認が必要な事項について下記に解説する。本年7月3日付け発行の「2016年度新競技規則変更の概要（新競技規則書を受けて）および、8月発行の「2016年度版競技規則書」と本資料を照らし合わせ、正しい理解のもとで競技が運営されることを期待する。

1 コートプレーヤーとゴールキーパーの交代に関して

- ① これまでと同様「穴あきシャツ」の使用は認められる。しかし、その脱着は必ず交代地域で行い、コート上で行ってはならない。

ゴールキーパーと交代し、攻撃に参加していたコートプレーヤーが、攻撃後、ゴールキーパーになろうとして穴あきシャツを交代地域から受け取り、コート上で身に着けるような行為が行われた場合は、不正交代となり、そのプレーヤーは2分間退場となる。レフェリーおよびTDは、ゴールキーパー不在の場合は、より注意力を高め、そのような行為が起こらないようにコート内外に集中する。

2 選手が負傷した場合に関して

- ① レフェリーはタイムアウトを取った後、明らかにコート上での治療行為が必要と判断した場合を除いて、入場許可の合図をする前に、必ず倒れたプレーヤーに対して「プレーを続けますか？」と問いかけること。

3 バッシブプレーに関して

- ① 予告合図を示してからのパスの回数のカウントについては、「競技規則書付録3」を参考にすること。6回目のパスまでと、6回目のパスの後ではカウントの方法が異なる点があるので事実判定の後、正しく説明できるように注意すること。
- ② 予告合図の後のカウントは両レフェリーで一致しておく必要がある。アイコンタクトや通知機器を用いて予告合図を同時に示したり、通信機器を用いてコートレフェリーがカウントしたりする。決して、予告合図を示した指を用いて回数を示したりすることがないように。

※特に確認を必要とする事項

4 競技終了30秒間に関して

- ① 競技規則書 8:10(c)および 8:10(d)の条文と、競技規則書内の新設された「競技規則運用に関するガイドライン」94ページからの記載内容を照らし合わせ、正しく運用する。
- ② 競技終了30秒間に行われたすべての違反行為が「失格+7mスロー」とはならない。
- ③ 競技終了30秒間で各種スローの実施時について
 - ア) 相手が3mの距離を保とうとせずスローができなかった場合は、「失格（報告書を伴わない）+7mスロー」の判定をする。
 - イ) 各種スローが行われ、3mより近い場所にいる相手プレイヤーにブロックされた場合は、ボールがスローするプレイヤーの手から離れてしまったあと（スローの完了後）のことであり、競技終了30秒間であったとしても通常の段階的罰則を適用する。明らかな得点のチャンスをこの違反行為で防御していない限り、7mスローを判定することはない。

5 ブルーカードに関して

- ① ブルーカードは、これまでレフェリーにより口頭で伝えられていた「報告書を伴う失格」を示すためのものである。
- ② 「競技終了30秒間」に起こった違反行為に関しては、新競技規則よりすべてブルーカード（報告書を伴う失格）に該当するわけではない。